

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名：社会福祉法人 敬和会

研修事業の名称：介護職員初任者研修（通学）

科目番号・科目名（時間数）	1 職務の理解（ 6 時間）	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○介護という職業について、介護保険制度下の居宅サービスおよび施設サービスの内容を中心に、その他の介護保険外サービス（福祉・医療サービス等）について概説する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の概念 ・介護保険サービス（施設・居宅・地域密着型サービス） ・介護保険外サービス <p>〈演習内容〉</p> <p>○講義を踏まえ、施設の紹介映像（DVD 教材）を利用して介護サービスの内容および介護サービス提供現場を理解する。</p>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○居宅及び施設における介護職の具体的な仕事内容、サービスを提供する現場の状況、ケアプランから始まる介護サービス業務の流れを解説する。チームアプローチ・他職種との連携、地域の社会資源との連携について概説する。</p> <p>〈演習内容〉</p> <p>○グループに分かれ受講生の介護体験を披露し合い、互いの「介護観」に対する理解を深める。</p> <p>○実際の介護体験を中心に、これから学んでいく研修課程全体の各研修科目内容がどのように関連して必要になるかをグループごとに図を作成してまとめる。</p>
合計時間数	6 時間	

科目番号・科目名 (時間数)	2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護	5 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権と尊厳の保持 <ul style="list-style-type: none"> ・個人としての尊重 ・アドボカシー ・エンパワメントの視点 ・「役割」の実感 ・尊厳のある暮らし ・利用者のプライバシー保護 ○ICF <ul style="list-style-type: none"> ・介護分野における ICF ○QOL <ul style="list-style-type: none"> ・QOL の考え方 ・生活の質 ○ノーマライゼーション <ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーションの考え方 ○虐待防止、身体拘束禁止 <ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束禁止 ・高齢者虐待防止法 ・高齢者の養護者支援 ○個人の権利を守る制度の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○虐待、身体拘束、プライバシー侵害、利用者の尊厳を損なう介護職員の言動などの具体例を示し、その背景にある状況や介護者の心理についてグループディスカッションを行う
②自立に向けた介護	4 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自立支援 <ul style="list-style-type: none"> ・自立・自律支援 ・残存能力の活用 ・動機と欲求 ・意欲を高める支援 ・個別性/個別ケア ・重度化防止 ・サービス提供の基本視点 ・具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を活用しながら自立支援や重度化の防止、遅延に資するケアを

		<p>促す</p> <p>○介護予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防の考え方 ・一次予防事業である高齢者が参加しやすい教室開催への取り組み等の理解 ・二次予防事業の6つの視点である <ul style="list-style-type: none"> ①運動器の機能の向上 ②栄養改善 ③口腔機能の向上 ④閉じこもり予防・支援 ⑤認知機能低下予防・支援 ⑥うつ予防・支援 <p>等の理解</p> <p>〈演習内容〉</p> <p>○自立支援・介護予防の考えに基づいたケアを事例を使用してグループワークで学ぶ</p>
合計時間数	9 時間	

科目番号・科目名 (時間数)	3 介護の基本 (6 時間)	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護環境の特徴と理解 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護と施設介護サービスの違い ・地域包括ケアの方向性 ○介護の専門性 <ul style="list-style-type: none"> ・重度化防止・遅延化の視点 ・利用者主体の支援体制 ・自立した生活を支えるための援助 ・根拠ある介護 ・チームケアの重要性 ・事業所内のチーム ・多職種から成るチーム ○介護に関わる職種 <ul style="list-style-type: none"> ・異なる専門性を持つ他職種の理解 ・介護支援専門員 ・サービス提供責任者 ・看護師等とチームとなり、利用者を支える意味 ・お互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ・チームケアにおける役割分担 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事例紹介の中で、看護師、栄養士、理学療法士等が果たす役割を受講生が列挙した後に、介護職に求められる専門性の特質について討議する
②介護職の職業倫理	1.5 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義 ・介護の倫理 (介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等) ・介護職としての社会的責任 ・プライバシーの保護・尊重 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職業倫理に関わる講師の体験例を紹介した後に、受講生が各々の自分の体験による倫理観の変化について省察して文章化する。

<p>③介護における安全の確保とリスクマネジメント</p>	<p>1.5 時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護における安全の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・事故に結びつく要因を探り対応する技術 ・リスクとハザード ○事故防止、安全対策。 <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント ・分析手法と視点 ・事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等） ・情報の共有 ○感染対策 <ul style="list-style-type: none"> ・感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断） ・「感染」に対する正しい知識 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ヒヤリハットレポートの書き方
<p>④介護職の安全</p>	<p>1.5 時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護職の心身の健康管理 <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の健康管理が介護の質に影響 ・ストレスマネジメント ・腰痛の予防に関する知識 ・手洗い、うがいの励行 ・手洗いの基本 ・感染症対策 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○講師の実演に基づき、手洗い、うがいの方法を全員でシミュレーションする。
<p>合計時間数</p>	<p>6 時間</p>	

科目番号・科目名 (時間数)	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護保険制度創設の背景および目的、動向 <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント ・予防重視型システムへの転換 ・地域包括支援センターの設置 ・地域包括ケアシステムの推進 ○仕組みの基本的理解 <ul style="list-style-type: none"> ・保険制度としての基本的仕組み ・介護給付と種類 ・予防給付 ・要介護認定の手順 ○制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 <ul style="list-style-type: none"> ・財政負担 ・指定介護サービス事業者の指定 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○制度に関わる基本的な用語について、練習問題を解いて知識の確認をする。
②医療との連携とリハビリテーション (1)医行為と介護・医療と介護の連携	2 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医行為と介護 ○訪問看護 ○施設における看護と介護の役割・連携 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医行為であるか問われる具体例を示し、ディスカッションを通してその判断基準を示す。
(2)リハビリテーション医療に関する部分	2 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リハビリテーションの理念 ○残存機能の回復 ○身体機能のリハビリテーション ○生活行動のリハビリテーション ○精神活動のリハビリテーション <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見学を通し、リハビリテーションがどのようなものかを知る。また、見聞した内容についてグループ討議を行う。
③障害福祉制度およびその他制度	2 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○障害福祉制度の理念 <ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念 ・ICF (国際生活機能分類) ○障害福祉制度の仕組みの基礎的理解

		<ul style="list-style-type: none">・介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで ○個人の権利を守る制度の概要 <ul style="list-style-type: none">・個人情報保護法・成年後見人制度・日常生活自立支援事業
合計時間数	9 時間	

科目番号・科目名 (時間数)	5 介護におけるコミュニケーション技術 (6 時間)	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 <ul style="list-style-type: none"> ・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ・傾聴 ・共感の応答 ○コミュニケーション技法、道具を用いた言語的コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・言語的コミュニケーションの特徴 ・非言語コミュニケーションの特徴 ○利用者・家族とのコミュニケーションの実際 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いを把握 ・意欲低下の要因を考える ・利用者の感情に共感する ・家族の心理的理解 ・家族へのいたわりと励まし ・信頼関係の形成 ・自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い ○利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・視力、聴力の障害に応じたコミュニケーションの技術 ・失語症に応じたコミュニケーション技術 ・構音障害に応じたコミュニケーション技術 ・認知症に応じたコミュニケーション技術 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーション技法の基本について、実演やロールプレイを通して学習する <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の抱く感情や気持ちの理解を図る
②介護におけるチームのコミュニケーション	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○記録における情報の共有化 <ul style="list-style-type: none"> ・介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録 ・介護に関する記録の種類 ・個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等） ・ヒヤリハット報告書 ・5W1H ○報告 <ul style="list-style-type: none"> ・報告の留意点

		<ul style="list-style-type: none"> ・連絡の留意点 ・相談の留意点 ○コミュニケーションを促す環境 ・会議 ・情報共有の場 ・役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼） ・ケアカンファレンスの重要性 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実際に介護記録を記入する ○介護記録における情報の共有化 ○報告・連絡・相談
合計時間数	6 時間	

科目番号・科目名 (時間数)	6 老化の理解 (6 時間)	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・防衛反応 (反射) の変化 ・喪失体験 ○老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・身体的機能の変化と日常生活への影響 ・咀嚼機能の低下 ・筋、骨、関節の変化 ・体温維持機能の変化 ・精神的機能の変化と日常生活への影響 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○加齢に伴って起こる様々な変化と症状を受講生全員で洗い出す ○身体機能が低下している状態を体験し、機能の変化を理解する
②高齢者と健康	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の疾病と生活上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・骨折 ・筋力の低下と動き ・姿勢の変化 ・関節痛 ○高齢者の多い病気とその日常生活上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・循環器障害 (脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患) ・循環器障害の危険因子と対策 ・老年期うつ病症状 (強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが前面に出る、うつ病性仮性認知症) ・誤嚥性肺炎 ・症状の小さな変化に気付く視点 ・高齢者は感染症にかかりやすい <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体温計測・電子血圧計を用いた血圧測定・脈拍の計測
合計時間数	6 時間	

科目番号・科目名 (時間数)	7 認知症の理解(6時間)	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	1 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症ケアの理念 <ul style="list-style-type: none"> ・パーソンセンタードケア ・認知症ケアの視点 (できることに着目する)
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の定義 ・もの忘れとの違い ・せん妄の症状 ・健康管理 (脱水・便秘・低栄養・低運動の防止・口腔ケア) ・治療 ・薬物療法 ・認知症に使用される薬
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症の人の生活障害、心理、行動の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の中核症状 ・認知症の行動、心理症状 (BPSD) ・不適切なケア ・生活環境で改善 ○認知症利用者への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・本人の気持ちを推察する ・プライドを傷つけない ・相手の世界にあわせる ・失敗しないような状況をつくる ・すべての援助行為がコミュニケーションであると考え ・身体を通したコミュニケーション ・相手の様子、表情、視線、姿勢などから気持ちを洞察する ・認知症の進行に合わせたケア <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事例をもとに認知症への対応方法をグループで検討する
④家族への支援	1 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症の受容過程での援助 ○介護負担の軽減 (レスパイトケア)
合計時間数	6 時間	

科目番号・科目名 (時間数)	8 障害の理解 (3 時間)	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	1 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○障害の概念と ICF <ul style="list-style-type: none"> ・ ICF の分類と医学的分類 ・ ICF の考え方 ○障害者福祉の基本理念 <ul style="list-style-type: none"> ・ ノーマライゼーションの概念
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	1 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身体障害 <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚障害 ・ 聴覚、平衡障害 ・ 音声、言語、咀嚼障害 ・ 肢体不自由 ・ 内部障害 ○知的障害 <ul style="list-style-type: none"> ・ 知的障害 ○精神障害 (高次脳機能障害、発達障害を含む) <ul style="list-style-type: none"> ・ 統合失調症、気分 (感情障害)、依存症などの精神疾患 ・ 高次脳機能障害 ・ 広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などの発達障害 ○その他の心身の機能障害 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実際の症例について ICF を用いて情報を整理し、活動・参加への具体的なアプローチ方法を立案する
③家族の心理、かかわり支援の理解	1 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家族への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の理解 ・ 障害の受容支援 ・ 介護負担の軽減 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事例を基に家族との関わりについてグループごとで討議を行う
合計時間数	3 時間	

科目番号・科目名 (時間数)		9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75 時間)	
基本知識の学習	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	①介護の基本的な考え方	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○理論に基づく介護 (ICF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ○法的根拠に基づく介護 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループに分かれて、生活障害という視点から、ICF に基づいて、心身機能と活動・参加との関連を図に示した上で介護の役割を挙げる
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習と記憶の基礎知識 ○感情と意欲の基礎知識 ○自己概念と生きがい ○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ○こころの持ち方が行動に与える影響 ○からだの状態がこころに与える影響 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人が生きることと社会参加との関係から高齢者の心身の健康についてグループワークで討議する
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ○骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ○自律神経と内部器官に関する基礎知識 ○こころとからだを一体的に捉える ○利用者の様子の普段との違いに気づく視点 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バイタルサインチェックの測り方を演習する <ul style="list-style-type: none"> ・体温 ・脈拍 ・呼吸 ・血圧
生活支援技術	④生活と家事	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 <ul style="list-style-type: none"> ・生活歴 ・自立支援 ・予防的な対応

の 講 義 ・ 演 習			<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体性。能動性を引き出す ・ 多様な生活習慣 ・ 価値観 <p>〈演習内容〉</p> <p>○調理援助に関して、模擬事例を用い、グループ演習を通して調理援助の計画を作成し、報告する。配慮すべき点や原則を踏まえ考察し、理解を図る。</p>
	⑤快適な住環境整備と介護	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者、障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭内に多い事故 ・ バリアフリー ・ 住宅改修 ・ 福祉用具貸与 <p>〈演習内容〉</p> <p>○DVD を活用し福祉用具、社会資源の活用、安全な住居環境の理解を深める</p> <p>○実際に福祉用具を使用し、体感してみる</p>
	⑥整容に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○整容に関する基礎知識、整容の支援技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ・ 身じたく ・ 整容行動 ・ 洗面の意義・効果 <p>〈演習内容〉</p> <p>○DVD を活用し、整容支援技術（洗顔、目、鼻腔、耳、爪の清潔法、髭剃り）の理解を深める</p> <p>○片麻痺、ベッド上で全介助等の状態を想定し、実際に着衣着脱の援助を行う</p> <p>○洗面、整髪、爪の手入れ</p> <p>○「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる</p>
生 活 支 援 技 術 の 講 義 ・	⑦移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	11 時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ・ 利用者の自然な動きの活用 ・ 残存能力の活用、自立支援 ・ 重心、重力の動きの理解 ・ ボディメカニクスの基本原則

<p>演習</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・ 移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす、洋式トイレ間の移乗） ・ 移動介助（車いす・歩行器・つえ等） ・ 褥瘡予防 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安楽な体位の工夫 ○ 体位変換、移動介助（臥位、起居動作、座位、立位） ○ 車いす⇔ベッド、ベッド⇔ポータブルトイレ、車いす⇔洋式トイレの移乗動作 ○ ボディメカニクスの活用と体位変換 ○ 肢体不自由者、視覚障害者の歩行介助 ○ 転倒予防体操を体験する ○ 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
	<p>⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食事に関する基礎知識、食事環境の整備、食事に関連した用具、食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ・ 食事をする意味 ・ 食事のケアに対する介護者の意識 ・ 低栄養の弊害 ・ 脱水の弊害 ・ 食事と姿勢 ・ 咀嚼、嚥下のメカニズム ・ 空腹感 ・ 満腹感 ・ 好み ・ 食事の環境整備（時間・場所等） ・ 食事に関した福祉用具の活用と介助方法 ・ 口腔ケアの定義 ・ 誤嚥性肺炎の予防 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループ単位で実施 ・ 受講生各自に紙コップ、スプーン、手ぬぐい、ハンドタオル、歯ブラシ、食材等をいくつか持参させて、実践的な食事介助の練習を行う ・ 様々な介護食材、トロミ材を用意し、制作、試食する ・ 食事介助の基本方法を講師が模範演技し、反復練習する。特に介護者の立ち位置、利用者の姿勢をポイントとする。

			<ul style="list-style-type: none"> ・嚥下のメカニズムを学ぶ ○口腔ケアの方法 ○食事介助（姿勢・摂食体験） ○実践練習を通して習熟度確認を行う ○「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
生活支援技術の講義・演習	⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・羞恥心や遠慮への配慮 ・体調の確認 ・全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方） ・目、鼻腔、耳、爪の清潔方法 ・陰部洗浄（臥床状態での方法） ・足浴、手浴、洗髪 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループ単位で実施 ・入浴、清潔保持に必要なさまざまな入浴用具、整容用具を紹介する ・特養の一般浴室を使用して、入浴介助の手順、安全確認、福祉用具の使用方法、利用者への接し方の実践練習を行う ・全身清拭、手浴、足浴、洗髪方法、ケリーパットの作り方、清拭時の体の支え方を講師が模範演技をし、実践練習を行う ・目、鼻腔、耳、爪の手入れの方法を学ぶ ・受講生に洗髪モデルを選任し、実際に洗髪する。 ・ベッド上での陰部洗浄の方法を学ぶ ・羞恥心、尊厳を守る環境整備、声かけ、気遣いの方法を学ぶ ・受講生は繰り返し練習し、練習を通して習熟度を確認する ・「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
生活支援技術の	⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・排泄とは ・身体面（生理面）での意味 ・心理面での意味

<p>講義 ・ 演習</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な意味 ・プライド、羞恥心 ・プライバシーの確保 ・おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害 ・排泄障害が日常生活上に及ぼす影響 ・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連 ・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的な方法 ・便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ） <p>〈演習内容〉</p> <p>○グループ単位で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義前に予め紙パンツを全員に配布し、排泄体験を行う ・排泄環境整備の方法 ・排泄用具の紹介 ・おむつやパッドの吸収ポリマーの能力、交換方法を学ぶ ・ベッドからポータブルトイレへの移乗方法を学ぶ ・ポータブルトイレの構造、使用方法を学ぶ ・ベッド上でおむつ交換の方法、差し込み便器、尿器の使用法、陰部の清潔保持、洗浄方法を学ぶ ・男性と女性の違いによる排泄介助のコツを学ぶ ・羞恥心、尊厳を守る環境整備、声かけ、気遣いの方法を学ぶ ・受講生は繰り返し練習し、練習を通して習熟度を確認する ・「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
------------------------	--	--

生活支援技術の講義・演習	⑪睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	3時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安眠のための介護の工夫 ・環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室） ・安楽な姿勢 ・褥瘡予防 <p>〈演習内容〉</p> <p>○グループ単位で実施。快適な睡眠環境の作り方、睡眠用具の紹介、活用方法を紹介する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドの構造、機能、操作方法を学ぶ。安楽な姿勢・褥瘡予防を実際に行う ・ベッドマット、枕、クッション、ベッド柵の使用法を学ぶ ・ベッドメイキング方法を学ぶ ・受講生は繰り返し練習し、練習を通して習熟度を確認する ・「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
	⑫死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	3時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期ケアとは ・高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死） ・臨終が近づいたときの兆候と介護 ・介護従事者の基本的態度 ・多職種間の情報共有の必要性 <p>〈演習内容〉</p> <p>○講師が示す事例・体験及び映画を鑑賞して、看取りの意義についてグループで討議する</p> <p>○受講生各自が「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる</p>

生活支援技術の講義・演習	⑬介護過程の基礎的理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護過程の目的・意義・展開 ○介護過程とチームアプローチ <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○具体的な事例を提示して介護計画（個別支援計画）を立案、作成する ○「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
	⑭総合生活支援技術演習	5 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・事例の提示→こことからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 ○2 事例（要支援 2、認知症）を用意し、グループ単位で課題に取り組み、介護計画の立案、実技を通して介護手順の習得と技術習得レベルの確認、介護後の見直しと今後の取り組みに向けた検討を行う <ul style="list-style-type: none"> 1) 要支援者への支援(概要・生活状況・状態像把握・必要な支援とその理由) 2) 要介護者・介護家庭への援助(概要・生活状況・状態像把握・必要な支援とその理由) <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1 事例 2.5 時間程度のサイクルで実施する ○「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
実習		12 時間	<ul style="list-style-type: none"> ○法人内施設で実習を行う。(1 日 2 名) (1)介護老人福祉施設 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者生活支援施設けいわ荘：3 時間 ・特別養護老人ホームユニテけいわ：3 時間 (2)通所介護事業所 <ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援センターけいわ荘：3 時間 (3)訪問介護事業所 <ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援センターけいわ荘：3 時間
	合計時間数	75 時間	

科目番号・科目名 (時間数)	10 振り返り (4時間)	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	2 時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○研修を通して学んだことや理解したことを再確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶこと ・根拠に基づく介護についての要点 (利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) <p>〈演習内容〉</p> <p>○グループディスカッションを通して、今後のキャリア形成について見通しを持つ</p>
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2 時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○事業所における事例を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶこと ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例 (Off-JT、OJT) を紹介 <p>〈演習内容〉</p> <p>○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所における事例紹介</p>
合計時間数	4 時間	
全カリキュラム合計時間	130 時間	